



「終活ねっと」について説明する岩崎社長

ライフエンディング研究会(主宰)小川有閑・浄土宗蓮宝寺住職)の定例会が7月31日に東京都武蔵野市の武蔵野プレイスで開かれた。終活に関するポータルサイト「終活ねっと」を運営する学

ライフエンディング研究会

終活の悩み解決をめざす 学生サイトに期待と不満

生起業家が事業を立ち上げた狙いを語り、参加者からは事業化の姿勢に厳しい意見もあった。同研究会は東京の武蔵野・多摩地域の宗教者や葬儀社、石材店、医師、行政書士ら「老・病・

死」の専門家が集まり、意見交換を行っている。この日は、東京大4年で東洋史を専攻する岩崎翔太(22)が講演した。岩崎社長は「終活がはやっていないが、情報を包括するポータルサイトがない」ことに注目し、立教大法学部

4年の佐々木将一副社長(22)らと共に、昨年9月に会社を起し同サイトの運営を始めた。サイトは、終活に関する総合的な情報を取り扱う記事ページ、専門的な言葉を解説する用語ページ、遺品整理を行う企業を紹介する専門家ページ

など構成されている。岩崎社長は「終活に関する全ての悩みを解決できるサービスを目指したい」と説明した。参加者からは若者ならではの視点や行動力への期待が集まる一方で、サイトの記事の内容が表面的だとの批判や若者の死生観を問う声もあった。「樹木葬などの現場を実際に取材するべきだ」との意見が出た他、小川住職は「相続や介護といった生活の悩みだけでなく、なぜ、死ぬのか」と指摘した。

貸地問題 大佛師の解決力 資金不要

大佛師 株式会社 **辻 岩**

京都市左京区二条通川端東入ル 畑波町216

京 都 大 阪 相 談 無 料 075-761-6668

京 南 信 州 名 古 屋 東 京

医学の進歩は目覚ましいが、人の生死に関する問題を医学だけで解決できるものではない。また、医学が進歩すればするほど、そこには人を幸せにする本当の理念が必要になってくる。仏教がその役割を果たす出番が、ますます増えてくることは避けられない。ところが、現状はそうではない。医学の世界だけではない。葬儀の場は葬儀会社の手中にあり、僧侶は一配役化し、出番すらない形も増えている。悩みを抱えた人は、僧侶に相談することは

医療の場と僧侶

なく、カウンセリングを受けない。お寺は縁談の窓口でもあったが、結婚相談所に通う。しかし、医療の世界で変化が出てきている。戦後、病院で終末を迎える人が増えてそれが普通となっている。ところがここ数年、国の医療政策が在宅医療重視に転換し、自宅や介護施設で終末を迎える人が増えてきている。その結果、僧侶が臨終の過程にかかわりやすい状況になってきた。

対象の会では多くの参加者が、関心の高さを実感するが、僧侶対象の会では、参加も少なく関心も低い。しかし、医療を含め、生老病死に関する問題に僧侶が積極的にいかかわり、心の支えになることを人々は期待している。しかし、実際には死に直面したときに、僧侶が心の支えになると考える人は少ないのが実状だ。医療と僧侶の関係だけでなく、お寺本来の布教活動である法要、法話、座禅、写経などの行事に関する心を寄せる人は少な

も僧侶が積極的にいかかわりていかねばならない。そのためには、各宗派で現代に合った臨終行儀を新たに工夫することも必要だろう。私のような僧侶だけでなく、昔の看護僧、介護僧に相当するお寺関係者も医療や介護現場に多くおられる。私もできる限り交流の輪を広げ、一緒に考えていきたいと思っ。

浄土系アイト「てら*ぱる 本堂でお披

浄土系アイドルグループ「てら*ぱるむす」2期生のお披露目ライブが7月30日、京都市下京区の龍岸寺で開かれた。満堂の本堂で、メンバー5人がオリジナル曲「花つばみ」などを歌い、ファンが声援を送った。「てら*ぱるむす」は、昨年11月の十夜法要にちなむイベント「十夜フェス」で結成された。「衆生(ファン)」と共に修行する」というコンセプトで、文殊菩薩や弥勒菩薩などをイメージした手作り衣装の女性たちが歌や踊りを披露する。運営には京都、滋賀の芸術系大学の学生らが関わっている。



2期生は5月にホームページ上で募集し、オーディションを受けた。お寺の敷地内で行われる。お寺の敷地内で行われる。お寺の敷地内で行われる。

お寺の敷地内で行われる。お寺の敷地内で行われる。お寺の敷地内で行われる。